科目名	AutoCAD Ⅱ				
科目名(英)	AutoCAD practice　Ⅱ				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	福光　春子
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	建材メーカ設計室にて、建築設計担当。今も実務に従事。
対象学科・学年	建築工学科　・　インテリアデザイン科　・　建築学科(昼)　2年				
授業概要	演習を通して、レイアウト空間での印刷スキルの習得及びCAD操作の正確さ、図面の読図能力、応用力の習得を図る				
授業形式	講義:　△	演習:　○	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				建築設計ツールの一つであるAutoCADの機能について学び、必要な機能を選択し使用することができる。
○	○				授業を通じて図面の種類を学び、図面と図面の関係性を立体的に捉え作図することができる。
○	○				意匠図の作図を通じて部屋の広さや高さを学び、建物の計画に応用することができる。
○	○				構造図面の作図を通じて木造住宅の構造を学ぶと共に、部材の名称を答えることができる。
○	○				授業を通して建築図面の作図手順を学び、建築計画時に応用することができる。

テキスト・教材 参考図書

テキスト::オリジナルプリント
参考図書:超入門　建築製図(市ヶ谷出版)

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	鉄筋コンクリート住宅　1階平面図①	オリジナルプリント 建築製図　基本の基本(学芸出版社)
2	鉄筋コンクリート住宅　1階平面図②	オリジナルプリント 建築製図　基本の基本(学芸出版社)
3	鉄筋コンクリート住宅　2階平面図①	オリジナルプリント 建築製図　基本の基本(学芸出版社)
4	鉄筋コンクリート住宅　2階平面図②	オリジナルプリント 建築製図　基本の基本(学芸出版社)
5	鉄筋コンクリート住宅　断面図①	オリジナルプリント 建築製図　基本の基本(学芸出版社)
6	鉄筋コンクリート住宅　断面図②	オリジナルプリント 建築製図　基本の基本(学芸出版社)
7	鉄筋コンクリート住宅　立面図①	オリジナルプリント 建築製図　基本の基本(学芸出版社)
8	鉄筋コンクリート住宅　立面図②	オリジナルプリント 建築製図　基本の基本(学芸出版社)
9	鉄筋コンクリート住宅　配置図 、レイアウト空間での印刷	オリジナルプリント 建築製図　基本の基本(学芸出版社)
10	鉄骨造住宅　1階平面図①	オリジナルプリント 建築製図　基本の基本(学芸出版社)
11	鉄鉄骨造住宅　1階平面図②、鉄骨造住宅　3階平面図①	オリジナルプリント 建築製図　基本の基本(学芸出版社)
12	鉄骨造住宅　2階平面図②	オリジナルプリント 建築製図　基本の基本(学芸出版社)
13	鉄骨造住宅　断面図①	オリジナルプリント 建築製図　基本の基本(学芸出版社)
14	鉄骨造住宅　断面図②、鉄骨造住宅　立面図①	オリジナルプリント 建築製図　基本の基本(学芸出版社)
15	鉄骨造住宅　立面図②、印刷	授業内容の復習 データ提出

評価方法

(1) 練習問題を数回実施する。(2) 授業課題の提出を求める。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
課題提出状況	◎	◎				50%
習熟度(スピードと正確さ)	◎	◎				50%

履修上の注意

出席が10回に満たない場合、提出課題が未提出の場合は履修単位を与えない。

科目名	就職実務ⅡB				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	各クラス担任
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 2年　建築工学科 3年				
授業概要	就職活動に必要な基礎知識を備えた人材の育成 就職活動における作品集作成や履歴書記入方法など、社会人になる上でのスキルを身につける。				
授業形式	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○				就職活動における企業研究が行うことができる
	○				自己分析を行うことができる
	○				作品集を作成し就職活動ができる

テキスト・教材 参考図書: 就職ガイドブック　社会人研修ノート

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達	
2	就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達	
3	就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達	
4	就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達	
5	就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達	
6	就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達	
7	就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達	
8	就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー　復習	
9	就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー　復習	
10	就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー　復習	
11	就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー　復習	
12	就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー　復習	
13	就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー　復習	
14	就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー　復習	
15	社会人研修	

評価方法

(1)受講態度・意欲　(2)課題の提出　以上の内容を総合的に判断し　R評価(可、不可)で判断する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
受講態度・意欲		○				30%
課題の提出		○				70%

履修上の注意: 60%出席を単位付与条件とする

科目名	建築士対策（製図Ⅱ）				
科目名（英）	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	今泉　清太
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	インテリアデザイン科　２年				
授業概要	2級建築士2次対策レベルに関する　各建築構造の基礎知識から応用を身に着ける。				
授業形式	講義:　△	演習:　○	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				RC建築構造の課題の特徴、出題傾向が説明できる。
○	○				S造の課題の特徴、出題傾向が説明できる。
○	○				各構造の矩計図、断面図の理解し、各部の名称が答えられる。
	○				建築士2次試験問題を限られた時間で描ける

テキスト・教材 参考図書

総合資格　2級建築士　設計製図　テキスト

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	近年の試験対策について　　全体概要説明	事前にテキスト確認する
2	設計製図試験の概要　　学習のポイント	前回学習したことを復習する
3	本試験出題のイメージ..	エキスと巻末の表現補法を確認
4	計画の要点の概要	前回学習したことを復習する
5	鉄筋コンクリート造（RC造）　概要	前回学習したことを復習する
6	ラーメン構造　構造　計画	前回学習したことを復習する
7	ラーメン構造　配置計画と外部動線	前回学習したことを復習する
8	ラーメン構造　平面計画	前回学習したことを復習する
9	鉄筋コンクリート造　課題文の読み取り、	前回学習したことを復習する
10	鉄筋コンクリート造　ケーススタディ　エスキスの進め方	テキスト巻末にある答案例確認し表現補法確認する
11	鉄筋コンクリート造　要求図面の描き方（ラーメン構造）	テキスト巻末にある答案例確認し表現補法確認する
12	鉄筋コンクリート造　立面図	テキスト巻末にある答案例確認し表現補法確認する
13	鉄筋コンクリート造　断面図	テキスト巻末にある答案例確認し表現補法確認する
14	鉄筋コンクリート造　部分詳細図	テキスト巻末にある答案例確認し表現補法確認する
15	鉄骨造（S造）	
16	鉄骨造（S造）（RC造）　概要	6月下旬に課題発表　特徴等事前調査を指示する。
17	純ラーメン構造　構造　計画	法令集持参、関連法規に注意させる
18	純ラーメン構造　配置計画と外部動線	建築計画テキストを持参させ、プリントと照らし合わせる。
19	純ラーメン構造　平面計画	建築構造テキストを持参させ、プリントと照らし合わせる。
20	鉄骨造（S造）　課題文の読み取り、	事例をもとに解説、プリントうはファイリングの支持をする。
21	鉄骨造（S造）　ケーススタディ　エスキスの進め方	11月下旬に課題発表　特徴等事前調査を指示する。
22	鉄骨造（S造）　要求図面の描き方（純ラーメン構造）	12月下旬に課題発表　特徴等事前調査を指示する。
23	鉄骨造（S造）　立面図	図面のチェックと修正
24	鉄骨造（S造）　断面図	図面のチェックと修正
25	鉄骨造（S造）　部分詳細図	図面のチェックと修正
26	チャレンジ課題②　課題読み合わせ　ポイントライン引き	図面のチェックと修正
27	チャレンジ課題②　　作図演習	図面のチェックと修正
28	チャレンジ課題②　　作図演習	図面のチェックと修正
29	チャレンジ課題②　　作図演習	図面のチェックと修正
30	まとめ　整理	演習問題れんけいする。

評価方法

(1)課題の提出　(2)課題の発表　以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S（90点以上）・A（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（59点以下）とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
練習課題	○	◎				30%
チャレンジ課題②	○	◎				70%

履修上の注意　出席率60%　未満者　単位付与しない。

科目名	建築士対策 （計画）				
科目名(英)	Architectural Planning				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	森行　美枝
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	建築設計事務所にて設計・監理業務担当
対象学科・学年	建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 2年　建築工学科3年				
授業概要	以下の項目について基本知識を理解し習得する。 気象　換気　伝熱　日照　音響　色彩　住宅　商業建築　公共建築　給排水設備　電気・照明設備　消火・防災設備				
授業形式	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				2級建築士出題範囲である 伝熱計算、露点温度等のグラフが読める。
○	○				日照・日射・採光の図形を見て、出題問題の正解が導き出せる。
○	○				建築物に付随する設備についての種類や役割が説明できる。
○	○				建築の歴史において、建築物の名称、建築家名、建築様式につて正解を選択できる。
○	○				住宅から公共建築物まで、特徴や都市においての役割など、正解を選択できる。

テキスト・教材 参考図書

確認、復習テストプリント
市ヶ谷出版　建築計画
総合資格　厳選問題集500＋100。

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	第1章　気候	
2	第2章　伝熱・結露	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
3	第3章　日照・日射・採光　第4章　音響	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
4	第5章　色彩	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
5	第6章　環境工学融合	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
6	第7章　空気調和設備	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
7	第8章　給水設備	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
8	第9章　排水衛星設備	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
9	第10章　電気・照明設備	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
10	第11章　消火・防災設備	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
11	第12章　設備融合	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
12	第13章　建築史　第14章　計画一般	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
13	第15章　住宅	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
14	第16章　商業建築　第17章　公共建築	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
15	第18章　地域計画　第19章　各論融合	今までの復習プリントで復習

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する。※60%以上取得すること
(2)2級建築士　学科本試験で合格を目指すこと
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	○				90点
復習問題	○	○				10点

履修上の注意

60%出席を単位付与条件とする。

科目名	建築士対策 （法規）				
科目名(英)	Building regulations				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	今泉　清太
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 2年　建築工学科3年				
授業概要	学科Ⅱで出題される以下の項目について基本知識を理解し習得する。 建築基準法　バリアフリー法　耐震改修法　建築士法　都市計画法　品確法				
授業形式	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○	△			法令集の準備が完了している。使用方法が理解している。
○	○				面積・高さ等の算定方法　構造強度　防火関係　防火構造等　概要が説明できる。
○	○				建築物に付随する設備についての種類や役割が説明できる。
○	○				建築の歴史において、建築物の名称、建築家名、建築様式につて正解を選択できる。
○	○				法令集を使用して、各章の答えを導かせることができる。

テキスト・教材 参考図書

確認、復習テストプリント
市ヶ谷出版　建築法規
総合資格　厳選問題集500＋100。

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	第1章　総則　用語の定義　面積・高さ等の算定方法	
2	第1章　総則　確認済証の交付	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
3	第1章　総則　手続き等(中間検査等)	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
4	第2章　一般構造等　一般構造　建築設備	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
5	第3章　構造強度	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
6	第4章　防火関係　防火構造等　法22条区域内の建築物	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
7	第4章　防火関係　耐火・準耐火建築物　防火・準防火地域	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
8	第4章　防火関係　防火区画・間仕切壁　内装制限等	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
9	第5章　都市計画区域等の制限　道路・壁面線	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
10	第5章　都市計画区域等の制限　用途地域	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
11	第5章　都市計画区域等の制限　容積率・建ぺい率	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
12	第5章　都市計画区域等の制限　高さの制限　日影規制	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
13	第6章　雑則	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
14	第7章　その他の関係法令　バリアフリー法　耐震改修促進法	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
15	第7章　その他の関係法令　建築士法　都市計画法　その他	今までの復習プリントで復習

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する。※60%以上取得すること
(2)2級建築士　学科本試験で合格を目指すこと
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	○				80%
復習問題	○	○				20%

履修上の注意

60%出席を単位付与条件とする。

科目名	建築士対策 （構造）				
科目名(英)	Building construction				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	黒木　文雄
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	設計事務所で 構造設計に従事。
対象学科・学年	建築CAD科　・　インテリアデザイン科　・　建築学科(昼)　2年　　建築工学科3年				
授業概要	学科Ⅲで出題される以下の項目について基本知識を理解し習得する。 構造物と力　静定構造物の応力 トラス　断面の性質　座屈　荷重　木構造　鉄筋コンクリート構造　鉄骨構造　特殊構造　建築材料　概要。				
授業形式	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				工事契約の仕組を理解し、過去の建築士問題が解ける
○	○				鉄筋コンクリート造の施工方法に関する、建築士問題が解ける
○	○				鉄骨造の施工方法に関する、過去の建築士問題が解ける
○	○				防水工事～設備工事の施工方法についての過去の建築士試験問題が解ける
○	○				積算に関する知識を試す問題が解ける。

テキスト・教材 参考図書

確認、復習テストプリント
市ヶ谷出版　建築構造
総合資格　厳選問題集500＋100。

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	第1章　構造物と力	第1章テキスト内の問題を事前に回答しておrく
2	第2章　静定構造物の応力	復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
3	第3章　特定トラスの応力	復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
4	第4章　断面の性質	復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
5	第5章　応力度と許容応力度	復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
6	第6章　変形と不静定構造物	復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
7	第7章　荷重・外力	復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
8	第8章　地盤と基礎構造	復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
9	第9章　木構造	復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
10	第10章　鉄筋コンクリート構造	復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
11	第11章　鉄骨構造	復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
12	第12章　その他の構造	復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
13	第13章　構造設計	復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
14	第14章　建築材料	復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
15	第14章　建築材料	今までの内容を復習する

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する。※60%以上取得すること
(2)2級建築士　学科本試験で合格を目指すこと
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	○				80%
復習問題	○	○				20%

履修上の注意

出席60%以上が単位付与の条件・

科目名	建築士対策 （施工）				
科目名(英)	Building Construction				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	集路　正巳
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	総合建設会社にて、主に施工管理職として勤務
対象学科・学年	建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 2年　建築工学科3年				
授業概要	以下の項目について基本知識を理解し習得する。 工事監理　施工業務　仮設工事　鉄筋工事　鉄骨工事　木工事　設備工事　建築積算　測量　工事契約				
授業形式	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				工事契約の仕組を理解し、過去の建築士問題が解ける
○	○				鉄筋コンクリート造の施工方法に関する、建築士問題が解ける
○	○				鉄骨造の施工方法に関する、過去の建築士問題が解ける
○	○				防水工事～設備工事の施工方法についての過去の建築士試験問題が解ける
○	○				積算に関する知識を試す問題が解ける。

テキスト・教材 参考図書

日建学院2級建築士学科受験テキスト　学科Ⅳ施工

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	第1章　工事契約	
2	第2章　工事監理・施工業務	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
3	第3章　地盤調査・測量　第4章　仮設工事	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
4	第5章　土工事・基礎地業工事	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
5	第6章　鉄筋コンクリート工事	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
6	第7章　鉄骨工事	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
7	第8章　コンクリートブロック工事	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
8	第9章　木工事	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
9	第10章　防水・屋根工事	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
10	第11章　左官工事	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
11	第12章　タイル・張石工事	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
12	第13章　塗装工事	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
13	第14章　建具・ガラス工事　第15章　内装・断熱工事	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
14	第16章　ユニット工事　第17章　設備工事	復習問題で復習　プリントjは次回まで提出 解説と一緒にファイリング
15	第18章　用語・機械　第19章積算	今までの内容を復習する

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する。※60%以上取得すること
(2)2級建築士　学科本試験で合格を目指すこと
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	○				80%
復習問題	○	○				20%

履修上の注意

出席60%以上が単位付与の条件・

科目名	卒業制作				
科目名(英)					
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	加藤　啓子
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	インテリアデザイン科　　2年				
授業概要	在学中に修得した建築やインテリアデザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を卒業設計としてまとめる。 建築・インテリアという分野の中で意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと進める。 成果は最終的に作品パネルや模型としてまとめ、研究発表を行う。				
授業形式	講義:	演習:　○	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○				本学におけるこれまでの学習の成果が身についている。
	○	○		○	テーマ設定、資料収集、リサーチ、構想、計画、制作といった一連の活動を問題なく遂行できる
	○			○	卒業制作を通して、実務に通用する洞察力や表現力を身につけることができる。

テキスト・教材 参考図書

配布プリント、スチレンボード、プラ板、ボンド、バルサ材等
※プレゼン内容による

授業計画

回数			授業項目・内容	授業外学修指示
1	2	3	テーマ・概要の決定	締切を確認し計画的に進めてください。
4	5	6	エスキス～ラフプランの作成	締切を確認し計画的に進めてください。
7	8	9	エスキス～ラフプランの作成	締切を確認し計画的に進めてください。
10	11	12	エスキス～ラフプランの作成	締切を確認し計画的に進めてください。
13	14	15	作図(平面図・配置図・立面図・断面図)	締切を確認し計画的に進めてください。
16	17	18	作図(平面図・配置図・立面図・断面図)	締切を確認し計画的に進めてください。
19	20	21	作図(平面図・配置図・立面図・断面図)	締切を確認し計画的に進めてください。
22	23	24	パース、スケッチ、模型、3D-CAD	締切を確認し計画的に進めてください。
25	26	27	パース、スケッチ、模型、3D-CAD	締切を確認し計画的に進めてください。
28	29	30	パース、スケッチ、模型、3D-CAD	締切を確認し計画的に進めてください。
31	32	33	パース、スケッチ、模型、3D-CAD	締切を確認し計画的に進めてください。
34	35	36	パース、スケッチ、模型、3D-CAD	締切を確認し計画的に進めてください。
37	38	39	プレゼンボード作成	締切を確認し計画的に進めてください。
40	41	42	プレゼンボード作成	締切を確認し計画的に進めてください。
43	44	45	最終確認後、提出	締切を確認し計画的に進めてください。

評価方法

(1)出課題作品の完成度　(2)段階的な作品の提出状況　(3)プレゼンテーションの出来栄えによって評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
課題作品		◎	○		○	80%
提出状況		◎			○	10%
プレゼンテーション		○				10%

履修上の注意

60%出席を単位付与条件とする

科目名	検定対策ゼミⅡB（選択）インテリアコーディネーター				
科目名（英）					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	赤星　亜美
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	オーダー家具制作会社でインテリアコーディネーターとして勤務
対象学科・学年	インテリアデザイン科　2年				
授業概要	インテリア産業協会主催インテリアコーディネーター検定対策の学習を通して、建築概要とインテリアコディネーター知識のより専門的な知識の習得を図る				
授業形式	講義：　○	演習：	実習：	実技：	※　主たる方法：○　その他：△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				インテリアコーディネーター次試験合格レベルの知識を身につけることができる
○	○				インテリアコーディネータ二次試験合格レベルの知識を身につけることができる

テキスト・教材 参考図書

テキスト：インテリアコーディネーター合格教本（上・下）　インテリアコーディネーター問題集（上・下）　その他

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	15章　建築関連法規	
2	8章　各種エレメント	予習・復習することを心がける。
3	16章　消費者関連法規	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。
4	模擬試験	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。
5	模擬試験	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。
6	模擬試験	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。
7	模擬試験	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。
8	模擬試験	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。
9	模擬試験	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。
10	模擬試験	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。
11	模擬試験	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。
12	模擬試験	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。
13	模擬試験	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。
14	模擬試験	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。
15	模擬試験	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。

評価方法

(1)小テストを各章が修了した次の授業で実施する。 (2)20回目から宿題あり。 (3)全国模試を実施する。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S（90点以上）・A（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（59点以下）とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
全国模試	○	○				50%
小テスト	○	○				25%
宿題	○	○				25%

履修上の注意

科目名	検定対策ゼミⅡB（選択）宅地建物取引士				
科目名（英）					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	森行　美枝
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	建築設計事務所にて 設計・監理業務担当
対象学科・学年	インテリアデザイン科　2年				
授業概要	宅建試験の合格も視野に、試験の問題演習を通して、建築物を取引する不動産権利取引に関する知識を修得する。それにより、建築物の財産的価値の重要性を認識できる視点を養う。後期は特に重要ポイントを絞り込んだ総合的な演習も盛り込む。				
授業形式	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				宅建業の業務内容と役割の特に重要な部分について、関連条文の規定を用いて説明できる
○	○				宅地建物取引士の実務における重要事項を条文規定を用いて正しく説明できる
○	○				民法の権利義務関係について、小テスト・模擬テストで平均正答率60%以上を出すことができる
○	○				不動産取引手続きに関する問題について、小テスト・模擬テストで平均正答率60%以上を出すことが　できる
				○	宅地建物取引士資格試験合格

テキスト・教材 参考図書：出る順 宅建士　ウォーク問過去問題集2018年版①～③ 【東京リーガルマインド】

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	用語の定義／免許制度／宅建士制度営業保証金／保証協会／媒介契約等の規制	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
2	重要事項の説明／37条書面　8種制限／業務上の諸規制／監督・罰則／単元テスト	正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと
3	報酬／住宅瑕疵担保履行法	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
4	制限行為能力者／意思表示／代理時効／不動産物権変動／物権関係	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
5	抵当権／保証・連帯保証／連帯債務債権譲渡／債務不履行と解除／弁済・相殺／売買／単元テスト	正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと
6	借地借家法/借地借家法	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
7	区分所有法／不動産登記法／単元テスト	正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと
8	都市計画／開発許可制度/建築基準法（単体規定・集団規定）／宅地造成等規制法	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
9	土地区画整理法／農地法/国土利用計画法／諸法例	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
10	国土利用計画法／諸法例/不動産取得税／固定資産税	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
11	不動産譲渡所得／登録免許税／印紙税／贈与税	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
12	地価公示法／不動産鑑定評価基準／単元テスト	正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと
13	住宅金融支援機構／景品表示法/土地／建物／統計	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
14	全国模擬試験①	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
15	全国模擬試験②	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること

評価方法

（1）単元テスト（2）模擬試験（3）宅地建物取引士資格試験の点数で評価する
成績評価基準は、平均正答率　S（90%以上）・A（80%以上）・B（70%以上）・C（60%以上）・D（59%以下）とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
単元テスト	○	○				40%
模擬試験	○	○				40%
宅地建物取引士資格試験					○	20%

履修上の注意：難しい法律用語が多々出てくるので、用語の意味をその都度細かく確認すること

科目名	検定対策ゼミⅡB（選択）2級建築施工管理技士資格試験				
科目名（英）					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	集路　正巳
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	総合建設会社にて、主に施工管理職として勤務
対象学科・学年	インテリアデザイン科　2年				
授業概要	前期ゼミでは、本。試験（学科）に対応できる知識を身につける事に重点を置きました。後期ゼミでは、11月の本試験合格を視野に、過去問題演習を中心に実力（正解率60%以上）を身につけていきます。また、模擬テスト（3回以上）を実施し弱点を洗出し得点力アップを目指します。				
授業形式	講義：　△	演習：　○	実習：	実技：	※　主たる方法：○　その他：△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				建築施工に関する専門用語の意味を正しく説明できる。
○	○				過去問の平均正解率60%以上を獲得できる。
○	○				模擬テストの平均正解率60％以上を獲得できる。

テキスト・教材 参考図書

①. 2級建築施工管理技士要点テキスト〈2020年度版〉市ヶ谷出版社
②. 2級建築施工管理技士即戦問題集 〈2020年度版〉市ヶ谷出版社

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	実力確認テスト／本試験の概要説明など	・後期ゼミは演習中心となります。 問題解説は数が限られてしまうため、必ず自分で（解説書を）確認してください。 ・宿題がほぼ毎回出ます。必ず、消化してゆく事。（弱点の洗出しに役立ちます）
2	過去問題演習・解説01	
3	過去問題演習・解説02	
4	過去問題演習・解説03	
5	過去問題演習・解説04	
6	過去問題演習・解説05	
7	模擬テスト①	
8	過去問題演習・解説06	
9	過去問題演習・解説07	
10	過去問題演習・解説08	
11	過去問題演習・解説09	
12	過去問題演習・解説10	
13	過去問題演習・解説11	
14	模擬テスト②	
15	直前模擬テスト③	

評価方法

(1)授業中に小テストを実施する。 (2)模擬テスト（3回程度）を実施する。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S（90点以上）・A（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（59点以下）とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
模擬テスト	○	◎				70%
小テスト	○	◎				30%

履修上の注意

出席が総コマ数の2/3に満たない場合には、単位を与えない。また、ゼミ受講に対する意欲が感じられないと判断した場合は、ゼミへの出席停止を指示する事がある。

科目名	専攻ゼミⅡ（インテリア）				
科目名（英）					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	福田　昌彦
実施年度	2020年度	実施時期	後期	実務家教員担当科目	住宅メーカー、インテリア系企業にて商品開発者として勤務
対象学科・学年	インテリアデザイン科　2年				
授業概要	Chapter1：近年、建築・プロダクト・グラフィック等のクリエイターの要件として作品そのものの設計力に留まらず、「表現力」すなわちプレゼンテーションの技量による共感性の惹き出しが重要視されており、インテリアデザインの世界においても例外ではない。そこで、これまでの授業で培ってきたスキルに加え、更に効果の高い表現技術の習得を目標とし、卒業制作作品のレベルアップを図る。 Chapter2：専攻ゼミⅠの連動で、脚物家具の製作実習を行い実体験を通して構造・素材・仕上に関する知見の深化を図る。				
授業形式	講義：　○	演習：　○	実習：　○	実技：	※　主たる方法：○　その他：△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				プレゼンテーションを説得性の高いビジュアルとして構成することが出来る。
○	○				作品の説明を手順を踏まえ、共感性の高い口頭表現で発表することが出来る。
	○				選択A：CAD、レンダリング、動画等、時流に合わせたデジタル表現方法を習得している。
	○	○			選択B：細密な模型製作技術を習得し、インテリア空間模型を製作出来る。
	○	○			実物製作実習を通じて脚物家具の基本的素材特性、構造、組立手順を理解している。

テキスト・教材 参考図書：プリント配布等

授業計画

回数	授業項目・内容		授業外学修指示
1	ガイダンス		これまでの自己の学業知見を振り返り、卒業制作の方向性を考えておくこと
2	Chapter1：プレゼンテーション事例の紹介（口頭表現法）		卒業制作プレゼンに備え、ノートを取り各自で復習しておくこと
3	ビジュアルテクニック演習		授業内で終了出来なかった場合演習課題宿題
4	ビジュアルテクニック演習		授業内で終了出来なかった場合演習課題宿題
5	ビジュアルテクニック演習		授業内で終了出来なかった場合演習課題宿題
6	選択A：CAD・レンダリング実習	選択B：模型製作実習	希望を募りA、Bどちらかの選択とする。 計画通りの進捗が認められない場合、宿題とし、次回に備えること。
7	選択A：CAD・レンダリング実習	選択B：模型製作実習	
8	選択A：CAD・レンダリング実習	選択B：模型製作実習	
9	選択A：CAD・レンダリング実習	選択B：模型製作実習	
10	Chapter2：家具製作実習（スツールの組立）		家具工房「テノ森」にて小型木製スツールの製作実習。 時間割変則にて、終日2日間、計6コマ換算とする。
11	家具製作実習（スツールの組立）		
12	家具製作実習（スツールの組立）		
13	家具製作実習（スツールの組立）		
14	家具製作実習（スツールの組立）		
15	家具製作実習（スツールの組立）		

評価方法

定期試験は実施しない。

演習及び実習については下記の観点・割合で評価する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
演習作品	○	○				30%
実習作品	○	○	○			70%

履修上の注意

必要出席率は成績評価に関する規定（履修認定）第9条の通りとする。
演習課題を2つ以上未提出、または実習作品を未提出の者は不合格とする。

科目名	数学ゼミⅡB				
科目名(英)					
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	吉田　麻美
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	建築工学科　・　建築CAD科　・　インテリアデザイン科　2年				
授業概要	建築の各学科において必要とされる、基礎的な数学スキルの復習と習熟を目指す				
授業形式	講義:　△	演習:　○	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				正三角形・二等辺三角形の性質と条件を利用した基本問題が解ける
○	○				三角形の合同条件を利用した基本問題が解ける
○	○				平行四辺形の性質と条件を利用した基本問題が解ける
○	○				三角形・四角形の性質と条件を利用した応用問題が解ける
○	○				三角形と四角形を用いた証明問題が解ける

テキスト・教材 参考図書

オリジナル演習プリント

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	【演習問題】 三角形と四角形　正三角形・二等辺三角形の性質と条件	解答出来なかった問題は必ず復習・解答の上再提出すること。また、理解できなかった問題は質問事項を記入して担当教員に提出すること。
2	【演習問題】 三角形と四角形　直角三角形の合同条件	
3	【演習問題】 三角形と四角形　平行四辺形の性質と条件	
4	【演習問題】 三角形と四角形　特別な平行四辺形	
5	【演習問題】 三角形と四角形　面積が等しい三角形	
6	【演習問題】 三角形と四角形　空間図形の中の三角形と四角形	
7	【演習問題】 三角形と四角形　証明問題まとめ	
8	【演習問題】 三角形と四角形　総合復習・まとめ	

評価方法

(1)受講態度・意欲　(2)課題の提出　以上の内容を総合的に判断し　R評価(可、不可)で判断する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
受講態度・意欲	○	○				30%
課題の提出	○	○				70%

履修上の注意

60%出席を単位付与条件とする